

山 大 医 学 部 病 院 だ よ り

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

NEWS



患者支援センター



「患者支援センター」リニューアルオープン

6
2021

VOL.251

「患者支援センター」リニューアルオープン



新しくなった患者支援センター

令和3年3月1日(月)、「患者支援センター」がリニューアルオープンしました。患者さん・ご家族が安心とやすらぎを感じる空間として生まれ変わり、患者サポート機能をより一層充実していきます。

センター内には、プライバシー・感染対策に配慮された6つのカウンターブースと2部屋の相談室を設けており、看護師20名、医療ソーシャルワーカー8名、事務7名のスタッフで運営しています。(令和3年4月現在)



プライバシー・感染対策に配慮した相談室(個室)



外来診療棟玄関に入って左手奥の会計窓口横に新設。玄関に入って右手にある従来のセンターは、入院前説明室として残り、入院支援を行っています。

地域との連携窓口

地域の開業医・訪問看護ステーション・地域包括支援センターや行政など、様々な地域の医療機関等と連携して、“患者さんに寄り添った医療の提供”ができるよう、患者さんと病院をつなぐ架け橋となる窓口です。

具体的には、他の医療機関からの転院の調整や紹介患者の予約、紹介状の返書管理や連携医療機関の認定などを行っており、地域で患者さんが安心して医療を受けられるためのサポートをしています。

連携医療機関認定制度

当院に一定数以上の患者さんを紹介していただいた医療機関に対して、連携医療機関認定証を発行しています。当院との連携実績を患者さんに明確に示し、切れ目のない医療を安心して受けていただくことを目的としています。



患者さん・ご家族等の相談窓口

突然の病気や入院など様々な不安をもつ患者さん・ご家族等のための相談窓口です。医療はもちろん、経済的負担や生活面まで一緒に考えながら幅広くサポートしています。

医療費の支払いや就労などの相談に対しては、医療ソーシャルワーカーが市役所やハローワークなどの機関と連携しながら、医療費の負担を軽減できるしくみや様々な制度を活用して支援しています。また、当院は、がん・肝疾患の診療連携拠点病院となっており、がん・肝疾患をはじめ様々な病気のご相談にも応じています。

当院に受診されていない方の相談もお受けいたしますので、お困りのことなどございましたらぜひ一度ご相談ください。

相談内容

- 医療、福祉に関する制度について
- 医療費の支払いや経済的な問題について
- 社会復帰 (退院・転院など)
- 就労支援
- がん、肝疾患に関すること
- セカンドオピニオン など

入院・退院の支援

入院を予定している患者さんには、安心して入院生活を迎えていただくために、事前に入院前オリエンテーションを行い、入院時に必要なものや入院中の生活について説明しています。

また、患者さんにとっては、入院時だけでなく、退院後の生活もとても大切です。不安を最小限にして退院できるよう、当院の医師・看護師、医療ソーシャルワーカーだけでなく、在宅医なども含めて意見を交換し合う、退院前カンファレンスを実施しています。患者さんの症状や継続する医療処置の確認、患者さんの思いも共有します。

令和3年4月からは、必要に応じて、退院前・退院後に当院の看護師がご自宅に伺う訪問指導を開始しました。入院前から退院後まで、患者さんが必要な医療をしっかりと受けられるよう、切れ目のない診療体制でサポートしてまいります。

安心して入退院できるよう、医療のみならず幅広くサポート!



不安に感じることは何でもお気軽にご相談ください



YouTubeにて「患者支援センターリニューアル」動画を公開しています。ぜひご覧ください。



呼吸器・感染症内科 教授 松永和人

医学博士
日本内科学会認定医、日本アレルギー学会専門医
山口県アレルギー疾患医療連絡協議会委員
山口アレルギードクター等

頻繁に発作を起こす重症喘息や、定期的に全身性ステロイド薬を必要とする患者さんが県内外からいらっっしゃっています。このような患者さんに対して専門的な治療・診断を行っています。

小児 長谷川 小児科では、食物アレルギーの患者さんを多く診療しています。卵、牛乳、小麦が原因であることが多く、最近では魚卵（イクラ等）の食物アレルギーも増えていると言われています。そのほかアトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎の患者

①どのようなアレルギー疾患の診療をしていますか？

呼内 松永 呼吸器・感染症内科では、

頻繁に発作を起こす重症喘息や、定期的に全身性ステロイド薬を必要とする患者さんが県内外からいらっっしゃっています。このような患者さんに対して専門的な治療・診断を行っています。

小児 長谷川 小児科では、食物アレルギーの患者さんを多く診療しています。卵、牛乳、小麦が原因であることが多く、最近では魚卵（イクラ等）の食物アレルギーも増えていると言

われています。そのほかアトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎の患者

さんもいらっっしゃいます。

耳鼻 菅原 耳鼻咽喉科では、季節性（スギ花粉症など）や通年性（ダニなど）のアレルギー性鼻炎を多く診療しています。

皮膚 下村 皮膚科では、成人小児問わずアトピー性皮膚炎を診察しています。タイプは違いますが、接触皮膚炎もアレルギーの一つですのでパッチテストなど行っています。蕁麻疹の7割くらいは特発性と言ってはつきりした原因がないのですが、血液検査や皮膚テストをすることもあります。

眼科 永井 眼科で一番多いのはやはりアレルギー性結膜炎です。

松永 そういえば、アレルギー性結

膜炎の中にもいろいろな原因があると聞いたことがあります。

永井 そうですね。眼科でアレルギーが起る部位はまぶたもありますが、ほとんどが結膜になりますので、アレルギー性結膜炎というくくりになります。その中に花粉症やコンタクトレンズによるもの、アトピー性皮膚炎と合併して起きることもあり、小児の場合は春季カタルという結膜炎もあったりと、アレルギー性結膜炎の中にもいろいろ種類があります。

松永 なるほど。その場合、眼科ではなく一般の小児科や内科で点眼薬を使っている患者さんも少なからずいらっ

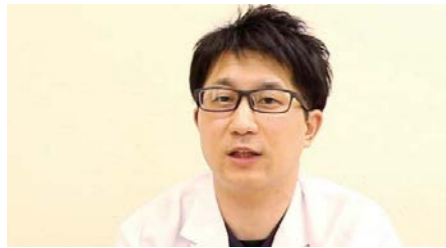
関連診療科や他職種との連携を強みに



- 出席者
- 呼吸器・感染症内科 松永和人
- 小児科 長谷川俊史
- 耳鼻咽喉科 菅原一真
- 皮膚科 下村尚子
- 眼科 永井智彦

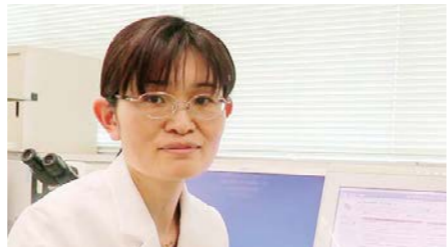
山口大学病院 × アレルギー座談会

山口大学医学部附属病院は、県内唯一のアレルギー疾患医療拠点病院です。診断や治療が困難な症例や、標準的な治療では病態が安定化しない重症及び難治性のアレルギー疾患患者さんに対し、関係する複数の診療科が連携し、診断、治療、管理を行っています。今回は、当院でアレルギー疾患の診療を行う5科（呼吸器・感染症内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科）それぞれの医師5名によるアレルギー座談会を開催し、アレルギー治療をはじめ、患者さんへの想いなどを話していただきました。



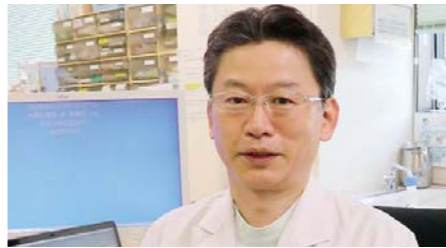
眼科 助教 永井智彦

日本眼科学会専門医
日本緑内障学会
山口県アレルギー-疾患医療連絡協議会委員



皮膚科 助教 下村尚子

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
日本皮膚免疫アレルギー学会、日本アレルギー学会
山口県アレルギー-疾患医療連絡協議会委員
山口アレルギードクター



耳鼻咽喉科 准教授 菅原一真

日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー-感染症学会
山口県医師会花粉情報委員
山口県アレルギー-疾患医療連絡協議会委員
山口アレルギードクター等



小児科 教授 長谷川俊史

医学博士
日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医
日本小児アレルギー学会(理事)
山口県アレルギー-疾患医療連絡協議会委員 等



やるのではないのでしょうか？

永井 多いと思います。アレルギー性結膜炎の原因は様々でそれぞれ治療方法も変わってきますので、症状が良くならない場合は眼科に相談してみてください。

② 山大病院でのアレルギー治療の特徴や強みは何でしょうか？

永井 外科的な治療(手術)や免疫抑制剤の点眼による治療を行うことができます。

下村 生物学的製剤や免疫抑制剤は副作用などを考えるとクリニックでは使いにくい場合もあるかもしれませんが、山大病院なら血液検査等で副作用をチェックしながら使えます。

菅原 当科でも、手術や生物学的製剤、舌下免疫療法といった多くの治療方法を提示することができます。舌下免疫療法については、導入時にアナフィラキシーショックの危険性がないことを確認したあとは患者さんが通いやすい近隣のクリニックに逆紹介して治療を受けてもらうようにしています。また、好酸球性副鼻腔炎と気管支喘息を合併し治療が難渋する場合があります。そういったケースは術後の管理も含めて当院の呼吸器・感染症内科と連携して治療にあたることもできるのも山大病院の特徴かと思っています。



松永 確かに、関連診療科と連携がとられていることは特徴であり、強みですね。また、多職種間での連携も強みかと思えます。例えば、生物学的製剤はかなり高価ですが、患者さんの経済的負担についてメディカルソーシャルワーカーさんに間に入っていたいただき、納得いただいた上で治療を導入することもできます。また、喘息治療に使用する吸入薬は様々なメーカーからたくさん種類が出されています。それぞれ吸い方も異なりますので薬剤師さんから患者さんへ指導できるように、宇部市の薬剤師会と定期的に吸入指導の勉強会を開いています。

困っている患者さんが相談でき、総合的に診察できる環境を整備する

る治療を受けようと思っても規制があるのでネットで調べてもすぐには出てきません。そういう場合のご相談窓口になれたらと思います。自らもHPを作って発信している状況ですので情報発信の役割も担っていければと思います。

松永 重症難治性のアレルギーで困っている方は山大病院に行けば相談ができて総合的に診察できる状況を整えることが非常に大切です。症状が落ち着き通常の治療を行う際は地元の通いやすいクリニックへ逆紹介し、例えば年に数回は山大病院でより専門的な検査・診断を行い、このままの治療方法で良いか評価するといった連携も大切ですね。

菅原 それが理想ですね。

長谷川 将来を担う人材の育成についてですが、若い人にいかに魅力ある診療かということ伝えていくことが大切だと思います。食物アレルギーの子どもたちに明るい未来を提供できることを目標に経口負荷試験を一生懸命行っています。研究面においても、成果を論文文化できれば、きちんと評価されるため学術的にも魅力ある分野だと伝えていければ、志す人も増えるのではないかと考えています。さらに今後取り組みたいことの一つに、移行期医療があります。小児科から内科などの成人科への移行をスムーズにできるよ

長谷川 やはり他職種との連携が特徴です。小児科だと、食物アレルギーの患者さんであれば原因食物を除去する場合があります。牛乳アレルギーのお子さんが牛乳を除去した場合、カルシウムの摂取量が50%くらいまで減ってしまい、骨の強さなどに影響が出るかもしれないと言われていています。その不足分をどうやって補うか、代用品による栄養の維持については栄養士さんと協力しています。

③ 拠点病院としての今後の展望は？

松永 拠点病院としての役割は大きく分けて3つあります。①患者さん、教育関連団体からの相談窓口を分かりやすくすること②診療科の連携による総合的な診療体制を強化すること③将来を担う人材を育成することがあります。

永井 クリニックでは難しい重症疾患の対応を更に担うことです。例えば結膜の切除が必要な場合や免疫抑制剤の点眼が必要な場合に受診していただければと思います。

下村 成人になってから食物アレルギー

うにしたいと思っています。また、患者さんにとって明るい情報を多く発信していきたいと思っています。

松永 同感です。どんどん盛り上げていきましょう。

④ こんな方は、ぜひ山大病院にご相談ください。

長谷川 食物アレルギーを疑ったら自己判断で除去せず、正確な診断に基づいて正しい管理を行っていただきたいです。当院は専門医の下でしかできない食物アレルギーの治療も行っていますので是非ご相談ください。また、小児喘息については、風邪か喘息かわからない場合やきちんと診断されていない場合、喘息と言われていないけど出されている薬は喘息の薬であるといった場合などがあります。患者さんに





よくよくお話を聞いてみると夜間に起きが出て眠れないとか、運動会の練習中にせきが止まらなくなつて見学しているとか、マラソン大会はいつもダンツ最下位だったとかいう子どもたちが実は喘息だったということもありました。咳が出て日常生活で困ることがあれば喘息なのかどうなのかも含めて、是非一度ご相談いただきたいです。

松永 慢性閉塞性肺疾患（COPD）と喘息の鑑別、もしくはCOPDと喘息の合併症例の診断についてはご相談いただきたいですね。どちらも症状だけで疾患を区別することは難しく、適切な治療薬の選択ができていないことも多いです。呼吸器・感染症内科は重症喘息の治療を得意としておりますので、治療を受けているけど頻繁に発作を繰り返す方や、少量であっても全身性ステロイドの内服を必要としている

患者さんを是非紹介していただけたらありがたいなと思います。

菅原 アレルギー性鼻炎について、既存治療で改善しない重症患者さんはもちろん、薬剤の眠気等の副作用が気になる受験生、妊娠する可能性がある女性などにはそれぞれに合わせた治療方法を提供できると思いますので是非ご相談ください。

下村 アトピー性皮膚炎で治療がうまくいっていないな、もう少しきれいになりたいなと思つている方は是非ご相談ください。アトピー性皮膚炎で意図もちゃんと診断されていない方が意外と多いように思います。アトピー性皮膚炎と診断されると、ネットでいろいろ検索して、かえつて悩んでしまう方もいらつしやるため、敢えて診断を告げていないのかもしれない。どうなのかなと思つている方は受診していただきたいです。あとは免疫抑制剤やステロイドの内服を少しづつ使つてなるとかやつているような方も一度ご相談いただくと良いかもしれません。アトピー性皮膚炎は難病のイメージがあるかもしれませんが、診断されたら一生アトピーというわけでは決してありません。以前に比べて治療の選択肢も増え、治る病気になってきていますのであまり悩まずに心配なことがあれば相談していただければと思います。

永井 アトピー性皮膚炎の方が眼科

疾患を合併し、白内障や緑内障になることもありますし、花粉症によるアレルギー性結膜炎も多いです。アトピーや花粉症をお持ちで結膜炎になった場合は大学病院で一緒に治療したほうが良い場合もあります。

⑤ コロナ禍でのアレルギー治療について教えてください。

菅原 コロナによる大きな影響はないかと思いますが、花粉症だとくしゃみやがでますよね。花粉症は死に至るような病ではありませんが、今の時期、人前でくしゃみをする周囲の目が気になることもあるかと思つています。大学病院に限つたことではないですが、このような時期だからこそしっかりと治療を受けるのも良いかと思つています。

長谷川 小児科でも、特にコロナによる大きな影響はありません。ただ、コロナが怖くて病院での受診を避けてしまつたとそれが一番の影響になつてしまつています。例えば経口免疫療法の治療が滞つたり、中断してしまつてもあるかと思つています。どうしても病院の受診ができない場合は自宅での治療を検討しますのでご相談ください。食物アレルギーの子どもさんがコロナになると重症化するといったことは今のところ報告されていませんのでコロナの拡大に伴う直接的な影響はないと言えます

コロナ禍だからこそ、正しい治療を

が、このような間接的な影響はあるかと思つています。

松永 当院ではコロナに対してできる限り最大限の水際対策を行い、通常通りの診療をおこなつています。困つている患者さんは我慢されずに受診していただければと思います。コロナ関連といえば喘息の薬がコロナに効くとか、逆に喘息の方がコロナにかかると重症化するとか、いろいろな情報が飛び交いました。今どのような状況かという点、喘息があるからコロナにかかりやすいといことはなさそうだという話になってきています。喘息の薬を吸引しているからコロナが悪くなるという話は決してありませんので、喘息が悪化しないよう従来通りコントロールしていくことが重要です。今の治療をしつかり継続していきましょう。

⑥ 病院だよりの読者のみなさまへメッセージをお願いします。

永井 忙しいクリニックだと半日に100人の患者さんを見ている所もあり、点眼の順番などの細かい情報を聞けないことがあるかもしれません。いろいろ詳しく知りたかったり、アレルギー



ギー治療がうまくいっていないことがあれば、一度山大病院での治療を考えてみたらいかかな、と思つています。

下村 アレルギーで皮膚科を受診される方はこれ検査できるのかな、どうしたらいいのかな等、不安をたくさん抱えていらつしやる方が多いと思つています。そういう方に対してしっかりと話を聞いて、できる限り思いにお答えできたらと思つています。他の患者さんをお待たせしてしまい申し訳なく思つてもあります。なるべく丁寧な診療を心がけていきたいと思つておりますので、ご理解いただけますとありがたいです。

菅原 たとえば先ほどからお話に出

ている舌下免疫療法を患者さんに、さあやつてほしい、と言つても実はなかなか難しく、舌下がしっかりと見えるように舌の位置を固定する練習が必要な患者さんもおられます。そういう場合一緒に鏡を見ながら練習する時間を取ることもできます。大学病院ですけれど、遠慮なくお声がけいただければと思います。

長谷川 繰り返しになりますが、食物アレルギーが心配であれば早めを受診してください。発症前であっても上の子さんが食物アレルギーを持っている場合、離乳食やスキンケア等を早めに対応することにより、食物アレルギーで悩まなくてすむかもしれません。

松永 先生方、どうもありがとうございます。アレルギーに関連する診療科が協力し合い、総合的な治療を提供できるように一緒に頑張つていければと思つています。アレルギー疾患医療拠点病院としての山大病院にどうぞ期待ください。

語句解説

■生物学的製剤

タンパク質などの物質を応用し生み出された新しい医薬品。劇的な効果が見込めるが、効果がない人もいます。費用が高く長期間使用する場合負担が大きくなる。

■免疫抑制剤

体内の免疫反応により引き起こされる過剰なアレルギー反応を抑制する治療方法。

■舌下免疫療法

アレルギー症状を引き起こすアレルゲンを含む治療薬を舌下から少量ずつ体内に取り込むことで、症状の緩和や、根治を目指すことが

できる。現在はスギとダニのアレルギーのみ保険適用。

■食物経口負荷試験

食物アレルギーは血液検査などではわからないため、食物アレルギーが疑われる食品を少量ずつ摂取し正確な診断を行うための試験。これにより①どの食品によってアレルギー反応が起こるのかを確定し②どの程度耐性があるか確認しながら③安全に摂取できる量を把握することができる。アナフィラキシー等の重篤な症状が出る可能性があるため、専門医の管理の下で行う。

■経口免疫療法

食物経口負荷試験で確定した原因の食品を少

量ずつ摂取し耐性獲得を目指す治療方法。食物経口負荷試験と同様アナフィラキシー等の症状が出る可能性があるため専門医と行う。

■慢性閉塞性肺疾患（COPD）

長期間にわたつたばこの煙などの有害物質を吸入したことで生じる肺疾患。適切な治療を行わないと呼吸の状態がどんどん悪くなる。肺機能が徐々に落ちていくため、病気ではなく年齢によるものと思ひ込み診断が遅れることが多い。

■メディカルソーシャルワーカー

医療機関等に勤務する社会福祉の専門職。患者の悩み（経済・社会・心理）相談を受け解決に導く。





山口大学病院公式

YouTubeチャンネル

をご存知ですか？

山口大学医学部附属病院の公式YouTubeチャンネルです。診療紹介や医療情報、本院の取り組みなどを配信します。



見てね！

たとえば、こんな動画があります。

診療紹介映像「知っちょる?山大病院」

当院の診療を分かりやすくまとめた3分程度の動画です。



こちらからアクセス！

こんな動画もあります。

病院紹介映像

2019年に開院したA棟や最新の手術室を紹介しています。



こちらからアクセス！

ほかにも、こんな動画があります。

アレルギードクター紹介動画や、リニューアルした患者支援センターの紹介動画もあります。



こちらからアクセス！

こんな動画だってあります。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策

当院での対策を見ていただくことができます。



こちらからアクセス！



こちらからアクセス！



こちらからアクセス！



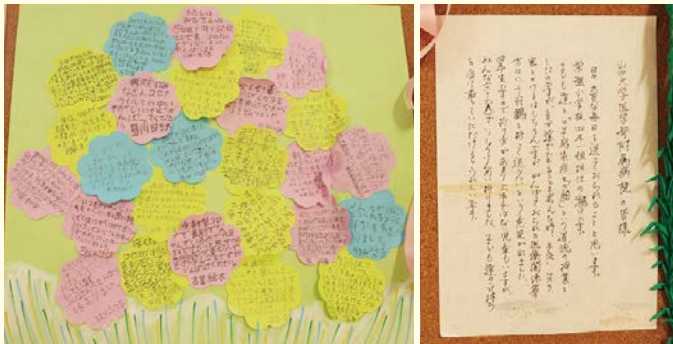
こちらからアクセス！

Topic

常盤小学校の皆さんから応援メッセージと千羽鶴が届きました

常盤小学校4年1組の生徒の皆さんが、本院医療スタッフへの応援メッセージと千羽鶴を送っていただきました。道徳の授業で新型コロナウイルス感染症について取り上げられ、自分たちで何ができるかを話し合わせ、医療関係者を応援したいとの意見がでたそうです。

心のコもったメッセージとカラフルな千羽鶴に、とても癒され励まされます。常盤小学校の皆さん、ありがとうございました。



Topic

感染症セミナーを開催しました

令和3年3月9日、医学部医修館において、沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科副部長の高山義浩先生を講師に迎え、感染症セミナーを開催しました。本セミナーはオンライン配信も同時に行い、多数の参加がありました。

始めに、本学呼吸器・感染症内科学講座の松永教授から挨拶と講師の紹介があり、続いて高山先生に「新型コロナウイルスの流行と沖縄県における対策」と題してご講演いただきました。講演の中では、沖縄県において新型コロナウイルス感染症が拡大した特有の状況や、感染拡大によって一変した在宅医療の現状、ワクチン接種後に想定されるシナリオなど、高山先生の厚生労働省でのご経験やヒューマンズに裏打ちされた医療現場でのご経験を踏まえて、大変分かりやすくお話しいただきました。

最後に篠田医学部長から閉会の挨拶とともに、本学医学科の卒業生である高山先生の学生時代の印象などについて紹介がありました。



オンライン面会のご案内

当院では、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、通常の面会は禁止しておりますが、ビデオ通話アプリを使用して、患者さんとご家族が画面を通して面会する「**オンライン面会**」(完全予約制)を開始しました。ご家族に来院いただき、当院が貸し出すタブレット端末を使用して、面会用ブースと病室等をビデオ通話アプリでつないで面会することができます。

面会時間

- 平日 15:00～16:00
- 1組 (ご家族3名まで) につき 10分、1日4組まで

面会場所

- 患者さんは病棟から、ご家族は面会用ブース (外来診療棟 1階患者支援センター) で行います。

※ご家族は、予約時間の10分前までに患者支援センターにお越しください。

予約方法

- 平日の13時～15時に患者さんが入院されている病棟にお電話にて「オンライン面会の予約希望」とお伝えください。また、入院患者さんご本人から申し出いただくこともできます。その際は、病棟看護師にご相談ください。
- 面会希望日の前日 (土日祝を除く) までにご予約をお願いいたします。

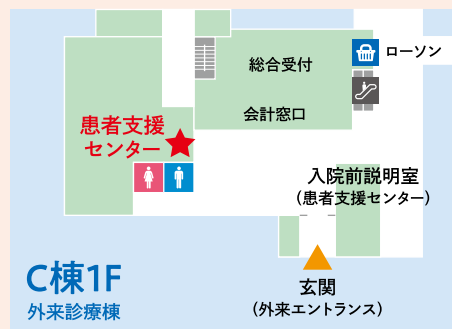
※限られた予約枠のため、ご希望に添えない場合もあります。

その他注意事項

- ご利用はご家族のみとなります。
- 来院の際は検温、確認票による体調チェックをさせていただきます。
- 病状によって面会をお断りすることがあります。



面会用ブース



外来診療棟玄関に入って左手奥の患者支援センターで行います。

お問合せ

- 山口大学医学部附属病院 患者支援センター
TEL 0836-22-2482
- 最新情報はホームページよりご確認ください。
<http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>



公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!



企画発行 山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2007
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>